



杉並区立高井戸第四小学校

令和4年9月1日

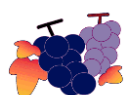
# ことばの教室だより

9月号



残暑お見舞い申し上げます。猛暑の夏をいかがお過ごしでしたか。今年も再びコロナウイルス感染拡大の夏休みになりました。ことばの教室のみなさんが健康で、楽しい毎日を送っているようにと願っていました。

そのような中でも、夏休みにしかできない体験や経験はできたでしょうか。2学期が始まりましたら、皆さんの夏の思い出を聞かせてもらいたいと思います。2学期もどうぞよろしくお願いします。



## 2学期の行事予定

※行事予定は、変更することがあります。  
また出張等が指導と重なる場合、個別にご連絡します。ご了承ください。

### 9月

- 1(木)～9(金)個人面談期間
- 5(月)区難言定例研究会(午前)
- 6(火)都難言協ブロック研究会(午後)
- 10(土)高四小土曜授業
- 12(月)2学期の個別指導開始
- 13(火)都難言協専門研究会(午後)
- 15(木)全難言協全国理事会(午前)
- 22(木)入級検討部会(午後)
- 27(火)都難言協役員研究会(午後)

### <10月以降の主な予定>

- 10月** ※初旬 個別指導計画発送
- 27(木)高四小就学時健診(午後：指導中止)
- 11月**
- 7(月)～18(金)在籍学級担任向け授業公開期間
- 24(木)～30(水)グループ活動週間
- 24(木)～12/7(水)在籍学級訪問期間
- 12月**
- 16(金)2学期の個別指導終了

## 次年度の継続等検討書類について

在籍学級担任の先生方には、次年度の継続等を検討するための資料として「**在籍学級での様子**」をお伺いします。9月中旬に、各在籍学校へ前述の書類を送付します。ご記入いただきまして、締切り日(10月中旬頃予定)までに、当教室へご返送ください。継続又は退級に関わらず、全通級児童を対象としていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## お願い～感染症対策について～

新型コロナウイルス感染が再拡大の状況にあります。ことばの教室でも感染症への対策に引き続き気を配ってまいりますので、今後とも保護者の皆様におかれましても通級指導へのご理解とご協力をお願いいたします。なおこれまでと同様に、教室入口での消毒のご協力と、検温を実施します。

今一度、下記の点をご確認ください。

- ① 本人や同居家族に風邪症状がある場合、また濃厚接触者と思われる場合は通級をご遠慮ください。
- ② 通級指導中は、できるだけ不織布のマスクを着用してください。
- ③ 在籍学級が学級閉鎖になった場合は、ことばの教室へも通級できません。

何かございましたら、ことばの教室へご連絡ください。

## 前期 個別指導計画・報告書について

4月から9月までの指導経過を記載した、前期分の個別指導計画・報告書を作成いたします。

保護者の皆様には、10月以降通級の際担当者からお渡しします。また在籍校には、10月初めに交換便にてお送りします。内容のご確認及び保管をお願いします。

不器用・運動障害

運動発達への支援

古島千尋（やんちゃワーク管理人・公認心理師）



**粗大運動**・・・歩く、走る、跳ぶ等全身を使う運動。身体の筋力や体幹による姿勢の保持が大きく関わり、日常生活の様々な場面に影響を及ぼすため発達全体の土台として非常に重要と言われている。

たとえば：「姿勢を保てない、姿勢が悪い」は、意欲ややる気がないのではなく、体幹が弱くて姿勢を保つことが大変という状況であることも多い。

粗大運動に弱さがあると「座り続ける」「立ち続ける」という姿勢保持が難しくなる。椅子の上に足をのせたり、正座をしたり、机に肘をついたりするのは、身体を支える支点を増やすための姿勢で頑張っている結果といえる。

⇒・体幹やその他の筋力を育てる運動や活動（バランスを保つことが必要な活動など）を積み重ねる。

- ・姿勢への注意喚起は適度に行い、ある程度の姿勢の崩れは許容する。
- ・良い姿勢を意識できるように、姿勢が良い時にほめる。

**微細運動**・・・指先で物をつまむ、持つ、手首をひねる等、手や指等の動きを細かくコントロールする運動。口元の筋肉の動きもこれにあたり、発音や食べ物の咀嚼等にも影響。手先を器用に扱うには握力が育っていることも重要。

たとえば：ボタンをはめることに時間がかかる、食べこぼしが多い、制作が苦手、道具をうまく扱えない、文字がうまく書けない、など。

⇒・好きな遊びやキャラクター等を取り入れながら手先を動かす機会を設ける。

- ・苦手な部分がターゲットとなる要素を含んだ活動を行う。

人間の運動発達の順序、方向性として、身体の中心→末梢、粗大→微細へと進む。

手先が不器用な子供には、土台となる粗大運動の発達を促していく必要があることも多い。

**眼球運動**・・・物を見る時に眼球の動きをコントロールすること。動いている物を目で追う、別の物に素早く視点を移す、物を見る時に両目で焦点を合わせる等で、粗大運動、微細運動の流暢さと密接な関係。視力そのものではなく、目の動かし方や使い方に関わる力。

たとえば：文字の読み飛ばし、手先を使う作業の困難さ、球技等のスポーツの苦手さなど。

⇒・視覚機能を精査できる眼科を受診する。

- ・目を動かす機会を設け、さまざまな目の使い方を習得していくと良い。

**協調運動**・・・目と手、手と足、目と口等、複数の身体の部位を協力させて行う運動。見ている場所にボールを投げる、手足を交互に出してはしごを登る、目で見た文字を音読するなど。粗大運動・微細運動・眼球運動を協調させている。

たとえば：足は速いがリレーのバトンがうまく渡せない、日常会話は問題ないが音読がたどたどしい、ボールは投げられるが狙った所にいかない、置いてあるボールは蹴れるが動いていると蹴れない、文字を空書きできても紙に書くと枠からはみ出すなど。

⇒・全体的な身体の協調性を育てることの他、目標となる動作に必要な運動を細かく整理し（どのようなサポートをすれば目標となる動作が可能になるのか）それぞれ練習していくことも有効。